

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800364		
法人名	特定非営利活動法人 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	島根県益田市幸町2番39号 (電話) 0856-31-0206		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】 (19年11月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算6, 8人

(2) 建物概要

建物構造	平屋木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有()円	〇無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	2	要介護2	6			
要介護3	1	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	88歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清澄メモリアル林医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

常に地域の中でのホームの在り方や利用者の生活を考え、明確な理念が運営に活かされている。管理者が交替するという出来事があったが、利用者と職員が家庭のように穏やかに寄り添い、利用者主体のきめ細やかなケアを継続して行っている。併設のデイサービスと日常的に交流し活動場面を多くすることで利用者の意欲を引き出している。職員は日々ケアの振り返りを行い意欲的に改善に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の「ホーム独自の理念をわかりやすく作ること」と「問題指向型の記録の仕方の工夫」は、いずれも検討され改善されていた。記録についてはよりよい記録の仕方を模索し継続して検討が続けられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員でそれぞれの項目について意見を書き、施設長がその意見をまとめて評価を行った。毎月、ケア会議や反省会で話し合いを行い課題を共有し改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの状況や行事、地域交流、防災などについて継続して討議を行っている。出席者の意見から、対象地域を拡げて公民館と一緒に認知症の啓発活動を行うなど、討議内容が活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	担当職員が中心になって家族とのコミュニケーションを取り意見を聞き出したり、年3回開催される家族会やアンケート調査などをとおして家族の意見の引き出しに努め、意見を日常のケアや運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加や地域住民との「ふれあいサロン」活動、また、近所の人からの花や野菜の差し入れなどもあり、日常的に交流が図られている。幼稚園児の訪問や中・高生などの体験学習の場にもなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念をよりわかりやすく表現しホームページ内に明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行う会議や反省会で日々の実践の振り返りを行い、理念の意識化に努めている。法人の理事長から理念について話を聞く機会がある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り地域の活動や諸行事に参加したり、地域の公民館の文化祭には利用者の作品を出品している。地域住民と「ふれあいサロン」を通じて交流し様々な行事を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が各項目について意見を書き施設長がまとめて評価を行った。定期的に職員が問題にしていることを話し合う機会があり、意識的に改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、討議内容はホーム内に掲示したり新聞で報告している。出席者それぞれの立場で意見交換を行い、意見は運営に反映されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が設置している「伝言ボックス」に書類を取りに行った時に情報交換を行ったり、後見人の相談をするなど、日常的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に写真入りの手紙を送ったり、家族会開催時にはビデオやアルバムなどを見てもらい生活ぶりを伝えている。担当職員が中心になって家族とのコミュニケーションに努めている。	○	さらに、遠方にいる家族が多いので訪問時には積極的に記録物を開示して情報を共有し、利用者の生活を一緒に考える機会を作っていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族が話しやすい雰囲気作りを行い家族の意見を聞いている。家族会は年3回実施され、家族同士の交流が図られている。遠方の家族には手紙や電話で意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は職員の状態に配慮しながら必要最小限に抑えている。利用者への影響を少なくするために、法人内で合同会議や日常的な交流を行い情報を共有したり顔馴染みの関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は法人内外の研修に積極的に参加している。研修内容は会議で報告され職員全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流したり研修する機会が多い。職員はこれまで交流する機会はなかったが、今年度は2回、他ホーム見学の機会を設け実施した。	○	さらに、この取り組みが継続したものになることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に同じ法人の運営するデイサービスを利用したり、希望があればホームに遊びに来てもらうなど、柔軟な対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家での生活のように調理の仕方を教わったり、「気をつけて帰りんさい」などといったわりの言葉をかけてもらったり、互いに信頼しあい、愛しく思う心で寄り添う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話をよく聞くことに徹し、思いや意向の把握に努めている。入居時には暮らし方の希望を細かく聞き取り、その情報をケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心になって計画案を立て、職員全員で話し合いを行って計画を立てている。家族とも話し合いを行い計画内容に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、ケア会議や反省会で利用者の状態を話し合い計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した時には医療機関と密に情報交換を行い利用者の生活を支えている。外出支援や必要な場合は通院の支援を行っている。	○	さらに、ホームとしての機能が地域住民に還元されるよう「ショート」などの取り組みも検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が納得したかかりつけ医の受診を支援している。協力医師による定期的な診察もあり手厚い体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対しては同じ法人の他の施設での対応を考えていて、ホームとして看取りを行う方針はない。	○	できるだけ早い段階から、方針を共有できるよう終末期の対応について、ホームでの選択肢も含めて、医師や関係者、職員と話し合いを重ねていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬い、言葉づかいに気をつけている。排泄の失敗時にもプライドを傷つけないようにさりげなく対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や活動への参加など、利用者一人ひとりの希望を聞きその人のペースを尊重した生活の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はデイサービスで作った物が運ばれているが、盛りつけやいもの皮むき、簡単な調理などは利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。職員も一緒に食卓を囲み和やかな食事場面だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの利用者に毎日声をかけ希望に沿った入浴支援をしている。夜間の希望があれば対応できるような職員体制になっている。入浴の嫌いな人にも声かけを工夫し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛りつけ、号令係、洗濯物干し、読書、折り紙、縫い物など、利用者の得意なことが活かせる支援をしている。日常的にデイサービスと交流があり利用者にあった活動に参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、派出所の花壇作り、教会へ行くなど、利用者の希望に沿った外出支援をしている。外出を好まない利用者にもタイミングを見ながら声をかけ気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず利用者の動向を見守り外出の時にはタイミングをみて声をかけ同行している。地域の中に見守りの体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災だけでなく地震や水害に対するマニュアルを作成し定期的に訓練を実施している。地域の人も訓練に参加している。水や乾パンなどの食料品も備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し利用者の状態を把握している。水分摂取も職員間で申し送りをし、水分のとりにくい人には飲みやすいドリンクやコーヒーなどで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や雑誌、手作り品などが置かれ木造の内装を基調とした居心地の良い家庭的な雰囲気作りがしてある。廊下の日当たりのよい場所にベンチが置いてあり、体操をしたり自由に過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で馴染んできた家具や火鉢、嗜好品の養命酒などが持ち込まれ、利用者のこれまでの生活歴がうかがえる安心した居室作りが行われている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。